

## 長崎純心大学博物館

この博物館は長崎におけるキリシタンの歴史を専門としていた純心女子短期大学（現在の長崎純心大学）の片岡弥吉教授（1908–1980）によって設立されました。現在は教授の2人の娘によって運営されています。この博物館は数々の貴重なキリシタン遺物を収蔵しており、その中にはイエズス会が日本での布教状況をまとめた年次報告書「日本年報」の1614年度版や、キリスト教を禁じる御触書、人々がキリシタンでないことを証明するために踏まされた「踏絵」の絵板、19世紀後半のキリスト教再興に関する文書などが含まれます。

弥吉教授自身は浦上出身で、収蔵されている文書の多くは日本の潜伏キリシタンに対する最後の大弾圧「浦上四番崩れ」（1867–1873）に関するものです。また、この博物館には有名な郷土史家、越中哲也教授によって集められた史料も保管されています。長崎純心大学博物館は主に学術図書館として研究者に利用されています